

演 題

「もし家族が認知症になったら」

～ 認知症者の理解と接し方 ～

社会の高齢化が進むにつれ、認知症者の数が増えています。親類縁者の中に認知症者がいたり、あるいはそうなる不安を抱えている人は決して少なくありません。

- 1) 認知症を抱えて生きるとはどういうことなのか。
- 2) その人と生活を共にしようとするとき、私たちはその人の何を気遣い、何を助けてあげればいいのか。

長年高次脳機能障害（認知障害）の作業療法に取り組んできた経験と、自身の家族を介護した経験にもとづき、これら2点についてお話します。

講師紹介



かまくら のりこ
鎌倉 矩子さん

原村出身

1962年東京大学医学部衛生看護学科卒業。大学卒業時にリハビリテーションに惹かれて日本肢体不自由児協会整肢療護園に就職。東京大学医学部附属病院技官、東京都老人総合研究所主任研究員、東京都立医療技術短期大学教授、広島大学医学部保健学科教授、広島大学名誉教授、国際医療福祉大学大学院教授などを歴任。日本の「作業療法の母」として現在もなお絶大な影響力を誇る。

～ 著書リスト ～

「ADLとその周辺、第三版」(医学書院,2015) / 「手を診る力をきたえる」(三輪書店,2013) / 「高次脳機能障害の作業療法」(三輪書店,2010) / 「作業療法の世界,改訂第2版」(三輪書店,2004) / 「作業療法士のための研究法入門」(三輪書店,1997) / 「PT・OT 学生のための運動学実習」(三輪書店,1994) / 「手のかたち 手のうごき」(医歯薬出版,1989)ほか

平成 30 年 12 月 13 日 (木)

午後 1 時 30 分～

場 所：原村中央公民館 講堂

講 師：広島大学・国際医療福祉大学

名誉教授（作業療法士）

かまくら のりこ
鎌倉 矩子 さん

公開講座ですので一般聴講も可能です。
興味のある方はどなたでもお気軽にお越しください。